

富岡製糸場でコンサート

華やかに春祝い 開業時の音色を



富岡市の世界文化遺産、富岡製糸場が建設された当時の音楽で開業150年目の春を祝う「立春コンサート」(市主催)が5日、場内の国宝「西置繭所」で開かれた。一流の奏者と歌手が歴史的建築物内に華やかな楽曲を響かせ、80人の聴衆を魅了した＝写真。

製糸場建設を指導したフランス人技師、ポール

・ブリュナが場内に持ち込んだとされるものと同型のピアノを用いた。群馬交響楽団の女性奏者らが、製糸場が完成した1872年ごろに欧州で流行していたというクラシック音楽を披露。高崎市出身のソプラノ歌手、永井美加さんが、ブリュナの義父が作った曲などを情感豊かに歌い上げた。

コンサートを企画した

ピアノプラザ群馬(同市)の中森隆利社長(76)は、開業当初の製糸場には国内最先端の西洋文化が導入されていたと説明。「当時流れていたと思われる音楽を再現することで、来場者に製糸場の歴史的価値を伝えられたのではないか」と話した。

(写真 入山亘、文 細井啓三)